

OB・OGの声

2020年3月修了（現 原子力規制庁研究職）

和田山 晃大

なぜ山路研に入りましたか？

- 研究室を選ぶ際に重視したこと・・・
 - ―スケールの大きな研究を試みたい
 - ―社会の役に立つ実感を持てる研究をしたい
(自分は福島出身なので原子力は親和性 高)
 - ―熱力学や流体力学に興味
 - ―実験よりシミュレーションをメインでやりたい
 - ―先生の指導が手厚い
 - etc...
- 研究室見学の際、山路研究室はこれらの考えとかなりマッチしそうだなと思い、決めました

何の研究をしていましたか？

- 福島第一原子力発電所の事故当時の溶け落ちた燃料（燃料デブリといいます）の温度や溶融割合をシミュレーションで推定する研究をしていました。廃炉での燃料取り出しに役立たせることを目的にしています。
- 研究の結果明らかになったこと・・・
 - ー2号機では炉心崩落時UO₂は大部分が未溶融であった可能性が高い
 - ーシミュレーションで事故時の物理現象を模擬するための種々の課題を明示することができた

研究で大変だったことは？

- 膨大なデータの分析

シミュレーションを行うと膨大なデータが出てきます。そこで、グラフ等をもとにどんな物理現象が起こっているのかということの一つ一つ紐解いていきますが、たくさんの情報に対して深い考察が求められるので大変でした。

- 国際会議発表の準備

外部に発表するためには単に解析結果を出すだけではなく、筋の通った論理を作る必要があります。先生と何回も議論をし、真っ赤に原稿を添削していただいたことは今の自分の大きな力になり、良い思い出です。

就職して役に立ったことは？

- 山路研究室で学んだ知識
 - 原子力発電所の全体のシステム
 - 事故時の物理現象
- 研究自体から得た力（多分どの職種でも通用）
 - 雑多な所から規則性を導くデータの分析力。
 - 大量のグラフと格闘した甲斐があったと思います。
 - 物理現象を単純な「モデル」に落とし込む考え方
 - 他人に情報を論理的にわかりやすく伝える力。先生に国際会議や修論で鍛えてもらった経験は論理に穴がなく分かりやすい資料を作る上で強みになります

ひとつと

- 就職志向の人からアカデミアに行きたい人まで幅広く力が身につけられる研究室かと思います。ちなみに私は原子力系の研究の仕事に就いたので研究室での経験はダイレクトに役立っていると感じますが、仮に別方面に就職したとしても有用なスキルが手に入ったと感じています。
- 原子炉設計から事故の解析まで幅広いテーマがあり、研究の題材としては非常に面白いものが多いと思います